

八幡図書館の移転整備計画（案）について【概要版】

1. 移転整備について

（1）移転の方針

八幡図書館の敷地が新八幡病院の敷地として活用されるため、八幡図書館は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて、平成27年度末を目途に移転する。

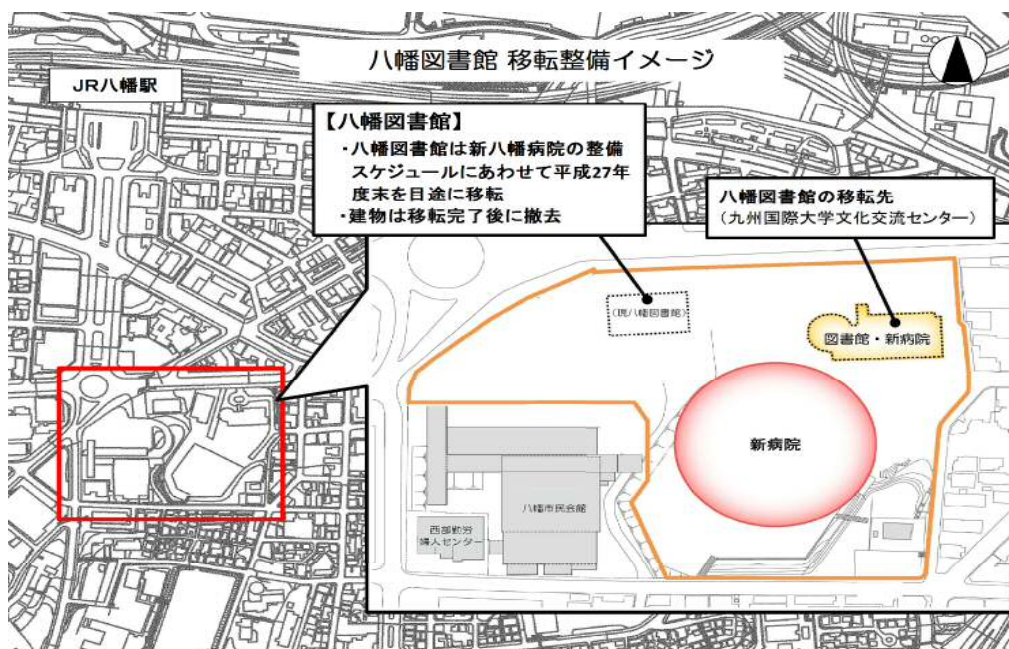
（2）移転整備の考え方

現在の八幡図書館は築50年以上が経過しており、かなり老朽化している。加えて、図書館機能の充実の観点からも、時代に沿った生涯学習の場とはいえない状況である。

新八幡病院の管理部門として活用予定の九州国際大学文化交流センター内に図書館を移転させることは、公共施設マネジメントの方針である施設の複合化や多機能化を図ることができるとともに、図書館としての機能性の充実や開放感のある空間づくりに取り組むことができ、市民サービスの向上が可能になる。

（3）移転場所

- ・所在地 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番1号



(4) 施設計画等

内容	(新)八幡図書館	八幡図書館
延床面積	約 1,400 m ² (1階と2階の一部)	1,536 m ²
蔵書数	約 17 万冊	19万冊
閲覧席数	約140席	132席
駐車台数	約20台	19台

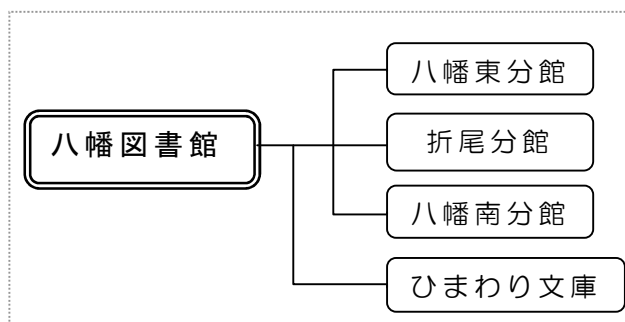
(5) 移転後の目標

- ・貸出者数 約 7万人／年
- ・貸出冊数 約 25万冊／年
- ・来館者数 約 19万人／年
(平成25年度実績の3割増を目指す)

(6) 運営手法

指定管理者制度を継続する
(八幡図書館八幡東分館、折尾分館、八幡南分館、ひまわり文庫の運営と合わせて、指定管理する。)

「八幡図書館」系統図



(7) 概算工事費

約 2 億円
八幡図書館移転整備は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて
工事を行うことにしている。

(8) 整備スケジュール

平成25年度 移転整備案検討
平成26年度 アンケート調査、整備計画策定、設計業務に着手
平成27年度 設計完了、移転改修工事
平成28年度 供用開始

2. 施設整備について

(1) 施設整備の方針（コンセプト）

施設規模としてはコンパクトながらも、地区図書館としてふさわしい図書館機能の充実と多機能化を図り、次世代を見据えた取り組みを行う。

(2) 施設整備の工夫

- ・アンケート調査(H26.6.24～7.15)で市民から頂いた意見・要望等を踏まえて、将来を見据えた図書館機能の充実を目指し、施設整備に取り組む。
- ・利用者が気軽に立ち寄れるように、1階部分に主な図書館機能を配置。
- ・コンパクトな書架スペースながらも、書架間の間隔を広くするなど、使い勝手の良い、オープンでゆとりのある空間づくり。
- ・子どもから高齢者、障害者・児など多くの人々に親しまれる図書館。バリアフリー化はもとより、机、椅子、サインなど、ユニバーサルデザインの理念でもある、誰もが使いやすい施設づくり。

(3) 配置ゾーニング計画の考え方

●開放的で、明るい空間に本を配架

- ・開放的で、明るく、ゆとりのある読書空間を提供。
- ・書架間を車椅子で移動できる動線の確保や拡大読書機の導入、大活字本コーナーなど高齢者や障害者・児にも配慮した読書空間整備。

●子育て支援に対応した取組み

- ・絵本や児童書、育児書の収集・充実により一層取組み、子どもの読書活動や子育て支援機能を強化。
- ・子ども専用トイレや赤ちゃんの駅(おむつ交換コーナー)を設置するなど、子どもと共に読書が出来る空間整備。

●次世代の図書館を見据えた機能の充実

- ・オンライン閲覧データベースの導入や、CD、DVDの視聴や貸し出しを行うなど、電子情報や視聴覚資料の充実。
- ・無線LAN機器(Wi-Fi対応)の設置の検討。

●時代に沿った生涯学習機会の提供

- ・市民アンケートの中で最も要望の多かった学習室機能の充実。隣との間仕切りを設置するなど、圧迫感がない、快適な学習環境を整備。
- ・市民の暮らしに役に立つ講座や地域の人々が自ら課題を発見し解決方法を議論して探す「課題解決型」学習会を開催できるセミナー室の設置。

●『滞在型』図書館への移行

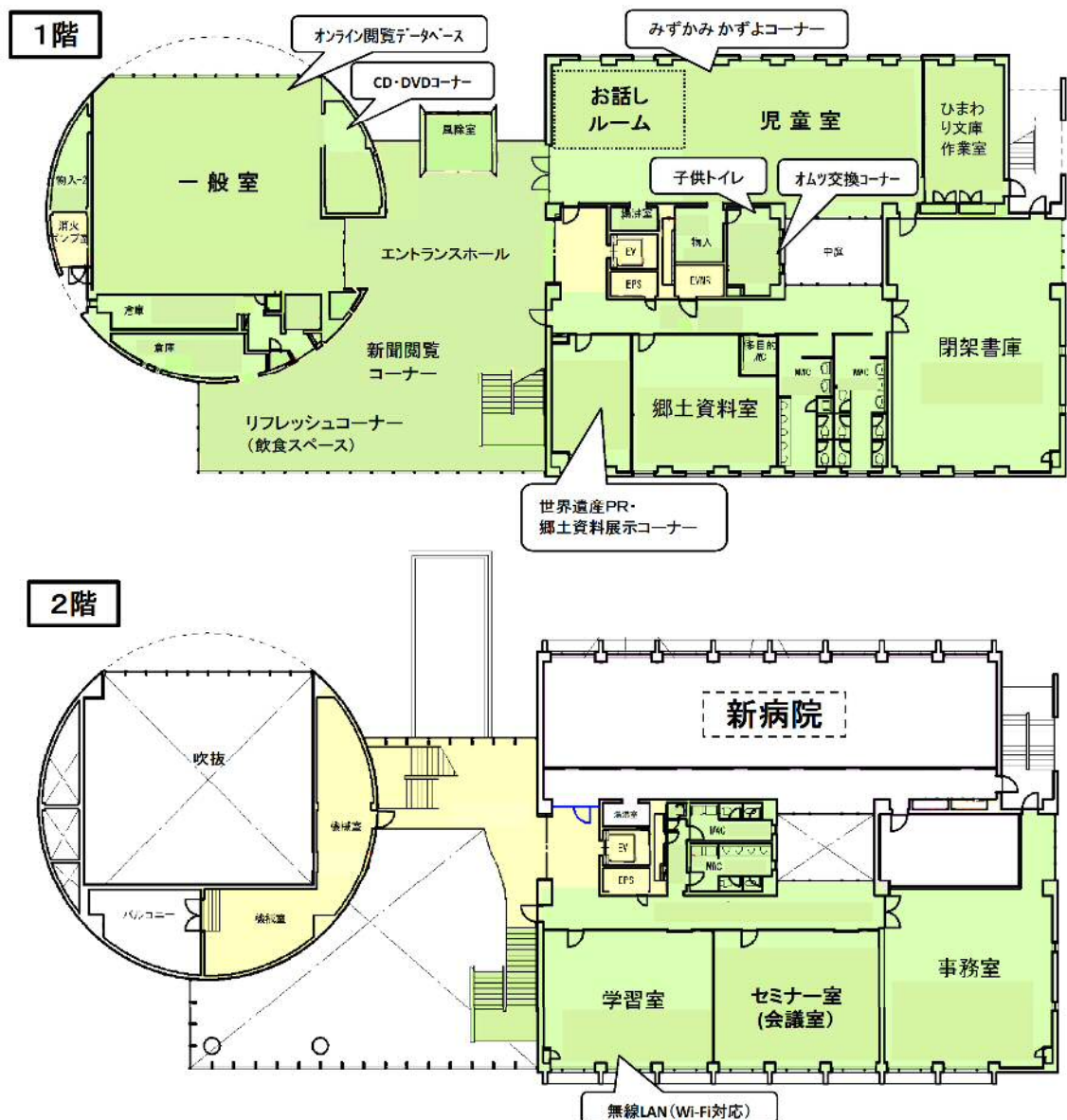
開放的で、奥行きのあるエントランスホール、飲食することができる休憩スペースなど、ゆとりのある空間で快適に過ごせる図書館を演出。

●八幡の歴史を継承する郷土資料コーナー等の設置

- 郷土出身の詩人・児童文学者「みずかみかずよ」の業績を紹介。
- 旧官営八幡製鐵所関連施設など世界遺産登録に向けてのPRコーナー。
- 八幡大空襲など郷土の歴史資料の展示。

(4) 施設配置イメージ (新八幡図書館は新八幡病院との複合化施設)

※図書館は現在の「九州国際大学文化交流センター(3階建)」の、1階と2階の一部を使用する予定



八幡図書館移転整備計画

(案)

平成27年2月

北九州市

◆八幡図書館の移転に係る整備計画

1 移転の経緯

【図書館のあり方について】

平成21年3月、北九州市立図書館協議会の「これからの図書館のあり方について（答申）」において、地区図書館については、「旧市の図書館を引き継ぎ活用された経緯もあって、概ね建築後30～50年が経過するなど老朽化しているものの、サービスの向上やバリアフリー化のための施設改修などに取り組みしており、ここ数年、利用者増が増加傾向にある。今後は、当面、既存施設を有効に活用しながら、大規模な耐震改修工事やまちづくり計画（地域開発）にあわせて配置を検討すべきである。」と示唆されている。

【新八幡病院周辺の公共施設について】

また、平成24年11月に新八幡病院の建設予定地が八幡図書館に隣接する「尾倉小学校跡地」に決定された。これに伴い、新八幡病院周辺の公共施設の建物と機能に関する方向性について、議会を含め様々な議論がなされるようになった。そして、平成26年3月には保健病院委員会から「八幡病院の建て替えにあたり、①災害拠点病院としてより一層の機能強化や利用者の利便性向上を図るため、更に広いスペースを確保すること。②広いスペースを確保するため、建設予定地周辺の市有地について、必要な範囲で、新病院の医療エリアとすること。」との提言がまとめられた。

【公共施設のマネジメントについて】

一方で、平成26年2月に策定した「北九州市行財政改革大綱」において、文化施設や図書館などの市民利用施設については、これまでの政策課題に応じて整備された様々な施設が市内各地に配置されており、その結果、施設数や施設保有量が多い状況になっている。このため、公共施設のマネジメントについて、老朽化した施設の更新にあたっては、できるだけ単独での更新は行わず、他の公共施設との複合化や多機能化を前提に検討を進めるという方針が示された。

【八幡図書館に関する方向性について】

こうした中、これまでに議会や関係者の皆様からいただいた様々なご意見や公共施設マネジメントの考え方も踏まえながら、検討を重ねてきた結果、平成26年3月末に八幡図書館に関する方向性を決定したものである。

2 移転の方針

新八幡病院のより一層の利便性向上や機能充実を図るため、八幡図書館の敷地を新八幡病院用地として活用する。

八幡図書館の敷地が新八幡病院の敷地として活用されるため、八幡図書館は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて、平成27年度末を目途に移転する。

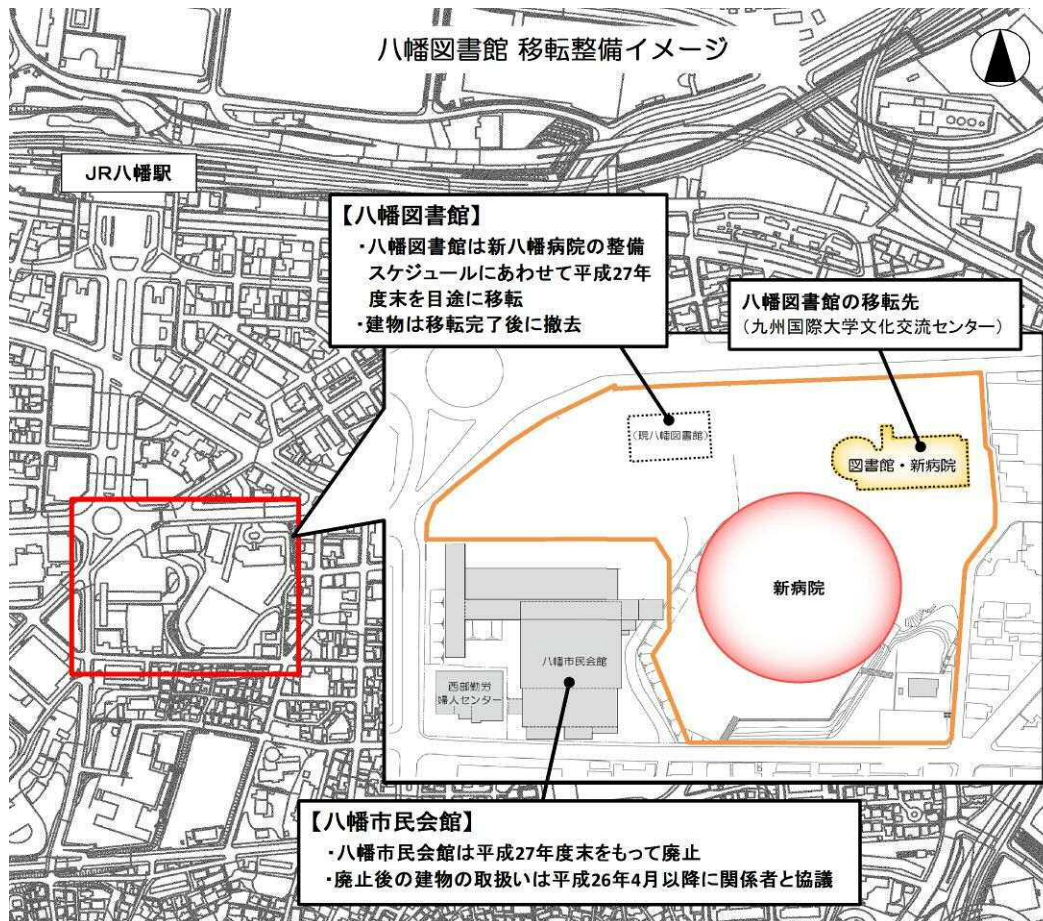
3 移転整備の考え方

現在の八幡図書館は築50年以上が経過しており、かなり老朽化している。加えて、図書館機能の充実の観点からも、時代に沿った生涯学習の場とはいえない状況である。また、財政負担の観点からは、建物の耐震補強と老朽化した施設・設備の更新などの改修費用、さらに図書館機能充実をはかるためのリニューアル費用など多額の費用がかかることが想定される。

新八幡病院の管理部門として活用予定の九州国際大学文化交流センター内に図書館を移転させることは、公共施設マネジメントの方針である施設の複合化や多機能化を図ることができるとともに、図書館としての機能性の充実や開放感のある空間づくりに取り組むことができ、市民サービスの向上が可能になる。併せて、既存施設を利用することで、将来的な財政負担が軽減できるものと考えている。

4 移転場所

- 所在地 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番1号（九州国際大学文化交流センター内）
- 移転場所については、市民の方々が愛着をもって、図書館を長年利用されてきたという地域性や図書館利用者の継続性などを鑑みて、現八幡図書館の近隣の九州国際大学文化交流センター内に移転するもの。（現八幡図書館から東側に100m移動）



4 施設概要等（九州国際大学文化交流センター）

- (1) 建築 平成9年（築18年）
- (2) 構造 RC造 一部鉄骨造 3階建
- (3) 敷地面積 約4,300㎡（市有地）
- (4) 用途地域 商業地域／近隣商業地域
- (5) 指定容積率 商業地域400％／近隣商業地域200％
- (6) 指定建蔽率 80％
- (7) 防火指定 防火地域、準防火地域
- (8) 延床面積 約2,600㎡
- (9) 利用状況 《1・2階 北九州市職員研修所》
《3階 現代美術センター CCA北九州》

5 施設計画等（新八幡図書館）

- (1) 施設規模 延床面積 約1,400㎡
（1階と2階の一部を使用）
- (2) 蔵書能力 約17万冊（戸畑図書館と同規模）
- (3) 閲覧席数 約140席
- (4) 駐車場 約20台程度

現八幡図書館概要

- 建築 昭和30年12月（開設 大正9年9月） 設計者 村野藤吾
- 構造
 - ・鉄筋コンクリート造 3階建（閉庫書庫4階層）
 - ・延床面積 1,536㎡
 - ・蔵書数 19万冊
 - ・座席数 132席
 - ・駐車場 19台
- 管理館 3分館（八幡東、折尾、八幡南）、八幡東区・西区内「ひまわり文庫」
- 指定管理 ㈱図書館流通センター（H26年度～H30年度）

3F	一般室(座席数36席)、学習室(座席数72席)	閉庫書庫
		(4F)
2F	児童室(座席数24席)、館長室、事務室、会議室	(3F)
		(2F)
1F	新聞閲覧室、ひまわり文庫作業室、車庫 旧管理人室	(1F)

6 設置後の目標

- ・貸出者数 約7万人／年
- ・貸出冊数 約25万冊／年
- ・来館者数 約19万人／年

八幡図書館利用状況

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
貸出者数	61,052	63,596	59,958	54,171
対前年比		4%	-6%	-10%
貸出冊数	250,664	263,291	222,405	195,532
対前年比		5%	-16%	-12%
来館者数				147,845

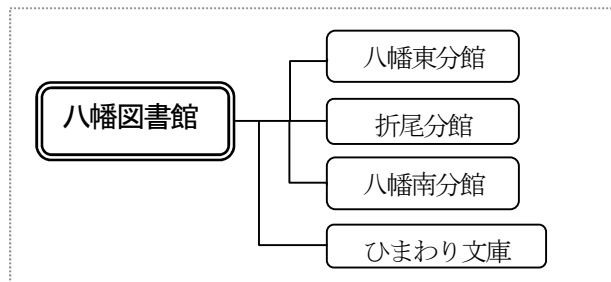
* 来館者数は平成25年度から統計実施

7 運営手法

指定管理者制度を継続する

(八幡図書館八幡東分館、折尾分館、八幡南分館、ひまわり文庫の運営と合わせて、指定管理する。)

「八幡図書館」系統図



8 概算工事費

約2億円

八幡図書館移転整備は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて工事を行うことにしている。

9 整備スケジュール（予定）

- 平成25年度 移転整備案検討
- 平成26年度 アンケート調査、整備計画策定、設計業務に着手
- 平成27年度 設計完了、移転改修工事
- 平成28年度 供用開始

● これからの八幡図書館

■ 八幡図書館の位置付け

● 本市の図書館ネットワーク（網）

本市の図書館網は、市内の図書館のセンター的役割を担う「中央図書館」をトップに、その下に「地区図書館」、さらに地域に「分館」（こどもと母の図書館など）を配置している。また、直接図書館のサービスを受けることが困難な利用者のために、市民センター等の公共施設などに「ひまわり文庫」（1小学校区に1箇所を原則として）を設けている。

● 「地区図書館」としての役割

八幡図書館は、「地区図書館」として位置づけられており、区民を中心に貸出、予約、読書案内、レファレンスなどのサービスに加え、市民の暮らしに役に立つ各種講座などを実施している。また、八幡東分館、折尾分館、八幡南分館などの「分館」及び八幡東・西区の「ひまわり文庫」を統括する機能を有している。

■ 新しい八幡図書館の機能・サービス

近年、図書館を取り巻く環境として、少子・高齢化の進行や情報化の進展、図書館サービスに対する市民ニーズの高度化・多様化など大きな変化を遂げている。こうした中、とりわけ八幡図書館は変化への対応という大きな課題に直面し、図書の閲覧・貸出を中心とした「従来型」の機能・サービスに加えて、時代に即した新たな図書館機能・サービスを展開していくことが求められている。

新たな図書館機能・サービスの事例（「図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」等を参照）

● 地域の発展を支える情報拠点としての役割の充実

これまでの「図書」の提供が中心の図書館サービスから、地域の実情に応じて、地域や郷土の資料の収集・展示を行うなど、多様な情報提供サービスへの取り組み。

● 図書館イメージの変化への対応

知の集積場所である「本の保管庫」というイメージから、人が交流し、集え、憩える「場」としての図書館への移行

● 電子媒体への移行の対応

紙媒体中心の図書館から、紙媒体とインターネット等の電子媒体を組み合わせ利用できる図書館への移行

● 高齢化、障害者・児への対応

人々に親しまれ、誰もが利用しやすい図書館を目指した機能・サービスへの取り組み。

● 未来のこどもたちへの対応

子どもの読書活動、子育てを支援するための図書館機能・サービスの充実

● 課題解決支援機能の充実

市民の読書を支援するだけでなく、地域の課題解決に向けた取り組みを支援する機能・サービスの提供

● ボランティア活動の推進

図書館ボランティアや読み聞かせボランティアの活動促進と活動の場の提供

● 施設整備の考え方等

■ 施設整備の方針（コンセプト）

施設規模としてはコンパクトながらも、地区図書館としてふさわしい図書館機能の充実と多機能化を図り、次世代を見据えた取り組みを行う。

■ 施設整備にあたって

老朽化している現在の八幡図書館は、施設が市民ニーズに対応しているとはいえない状況である。移転整備にあたっては、アンケート調査（平成26年6月24日～7月14日に実施）で頂いた意見・要望等を踏まえて、将来を見据えた図書館機能の充実を目指し、施設整備を行うことにする。

- (1) 利用者が気軽に立ち寄れるように、1階部分に主な図書館機能を配置するように施設整備を行う。
- (2) コンパクトな書架スペースながらも、書架間の間隔を広くするなど、使い勝手の良い、オープンでゆとりのある空間づくりを目指す。
- (3) 子どもから高齢者、障害者・児など多くの人々に親しまれる図書館としてバリアフリー化はもとより、机、椅子、サインなど、ユニバーサルデザインの理念でもある、誰もが使いやすいを目指した施設づくりに努める。

■ ゾーニング計画(案)の考え方

●開放的で、明るい空間に本を配架

図書館のメインとなる一般室は、吹き抜け空間を介して、開放的で、明るく、ゆとりのある読書空間を提供する。また、書架間を車椅子で移動できる動線の確保や拡大読書機の導入、大活字本コーナーなど高齢者や障害者・児にも配慮した読書空間整備に取り組む。

●子育て支援に対応した取り組み

子どもの読書活動、子育てを支援するため、絵本や児童書、育児書の収集・充実により一層取り組む。加えて、図書館機能充実の観点からは、子ども専用トイレや赤ちゃんの駅（おむつ交換コーナー）を設置するなど、子どもと共に読書が出来る空間整備を行う。

●次世代の図書館を見据えた機能の充実

これまでの図書館は、活字情報の提供が中心であったが、インターネットを利用して、電子情報に容易にアクセスできるオンライン閲覧データベースの導入や、CD、DVDの視聴や貸し出しを行うなど、時代に沿った図書館サービス機能の充実をはかる。また、アクセス環境の充実として、無線LAN機器（Wi-Fi対応）の設置も検討するようにしている。

●時代に沿った生涯学習機会の提供

市民アンケートの中で最も要望の多かった学習室機能の充実をはかる。隣との間仕切りを設置するなど、圧迫感がない、快適な学習環境を整えるように配慮する。また、市民活動の充実の観点からは、市民の暮らしに役に立つ講座や地域の人々が自ら課題を発見し解決方法を議論して探す「課題解決型」学習会を開催できるセミナー室を設置する。これまでも九州国際大学の学生に

よる障害者就業支援講座の開催を支援したり、図書館職員を派遣して北九州市立八幡病院、小児科病棟での絵本の読み聞かせを実施するなど、また、近隣病院から講師派遣を依頼し、健康講座を開催するなどの連携を行ってきたが、今後もこれまで以上に近隣施設と密接な関係を築き、より市民ニーズにあった講座等が開催できるように努める。

●『滞在型』図書館への移行

図書館を単なる本を集めた「本のやかた」として捉えるのではなく、本にふれあい、人にふれあうことで、様々な世代の人々との交流を誘発し、気楽に集え、くつろげる場所を提供するなど、市民ニーズにあった図書館づくりに努める。開放的で、奥行きのあるエントランスホール、飲食することができる休憩スペースなど、ゆとりのある空間で快適に過ごせる図書館を演出する。

●八幡の歴史を継承する郷土資料コーナー等の設置

■「みずかみかずよ」の業績を紹介するコーナー

小学校の国語教科書にも数多くの作品が採用されるなど、数多くの作品を残した郷土出身の詩人・児童文学者のみずかみかずよ（八幡東区尾倉出身）を顕彰するコーナーを設置する。

■北九州市から世界遺産を！ 世界遺産のPRコーナー

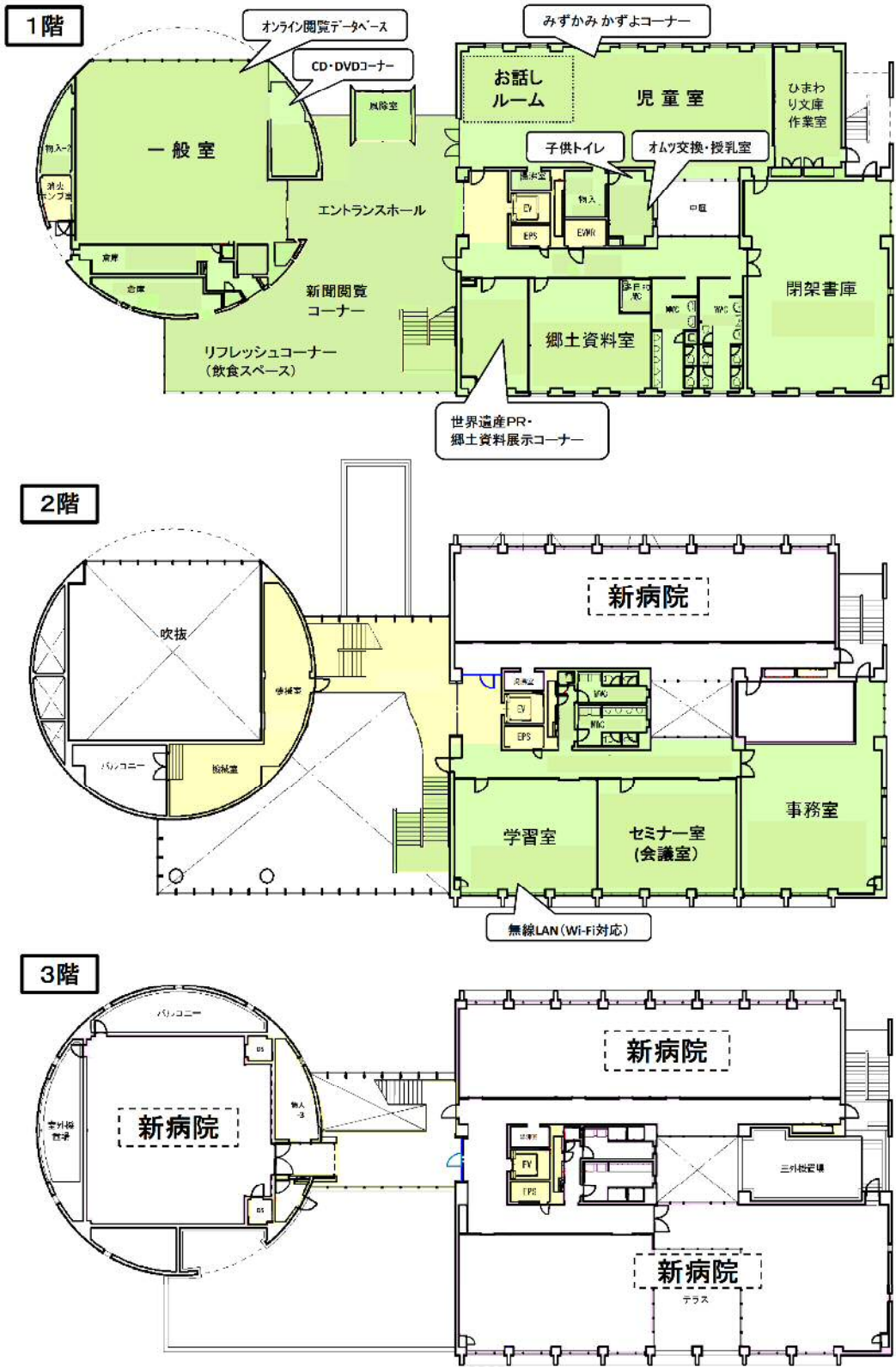
「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が平成27年の世界文化遺産登録に向けてユネスコへ推薦されており、中でも、本市からは八幡東区に所在する旧官営八幡製鐵所関連施設が構成資産に選ばれている。また、八幡大空襲などの郷土資料も併せて展示することを検討している。

■ゾーニング計画（案）

区分	考えられる内容
読書センターゾーン [一般図書を中心に、高齢者、障害者等にも配慮した読書の場]	■成人図書（一般図書） ■総合レファレンス ■大活字本コーナー、拡大読書機の導入
未来づくりゾーン [子どもの読書活動の推進、子育て家庭を支援]	■国内外の絵本や児童書、子育て支援関連図書コーナー ■レファレンスコーナー ■こども専用トイレ、赤ちゃんの駅（おむつ交換コーナー） ■お話しルーム（ボランティアによる絵本の読み聞かせなど）
電子・視聴覚ゾーン [電子情報（インターネット情報）、視聴覚資料の提供]	■電子情報コーナー ・インターネット端末 ・オンラインデータベース閲覧コーナー ■視聴覚コーナー（CD、DVDの視聴、貸出） ■無線LAN機能設置（Wi-Fi対応）
学習支援ゾーン [個人、グループ学習等の様々な学習を支援]	■学習室 ■セミナー室 ・各種講座の開催（ボランティアの研修等含む）
市民交流ゾーン [地域住民や利用者の憩いの場]	■リフレッシュ（飲食）コーナー ■エントランスホール（交流ロビー） ■郷土資料コーナー ・みずかみかずよの業績を顕彰するコーナー ・世界文化遺産、郷土資料の展示コーナー

■ 施設配置イメージ図

新八幡図書館は新八幡病院の管理部門との複合化施設である。
 (※図書館は1階と2階の一部、病院は2階の一部と3階を使用する予定)



■ 市民ニーズ

1 アンケート実施概要

(1) 実施期間 平成26年6月24日(火)～7月15日(火)

(2) 対象者、回収

区分	対象者、場所		回答数
個人	図書館等利用者 (窓口設置)	八幡図書館、八幡東分館、八幡東区役所	548
	その他 (窓口以外)	郵送・持参等	259
団体	地元等 関係団体	自治総連合会、まちづくり協議会、 幼稚園・保育所連盟、障害・福祉団体、 読書会、絵本等読み聞かせ団体 など	47
計			854

2 実施結果

(1) 望ましい図書館の機能・サービス(上位5つまで)

	1位	2位	3位	4位	5位
個人	学習室	リフレッシュ (飲食)コーナー	WEBコーナー	CD・DVD 視聴コーナー	専門書コーナー
	374人(46%)	364人(45%)	325人(40%)	306人(38%)	295人(37%)
団体	学習室	オンライン 閲覧コーナー	リフレッシュ (飲食)コーナー	郷土書籍コーナー 医療・障害書籍コーナー	
	26団体(55%)	23団体(49%)	21団体(45%)	20団体(43%)	

(2) 主な意見・要望(延べ316件)

	主な意見・要望	件数
1位	駐車場・駐輪場(台数・料金等)	88件(27.8%)
2位	施設整備(明るさ・広さ・トイレ整備。他の図書館を参考等)	72件(22.8%)
3位	蔵書の充実や管理	53件(16.8%)
4位	飲食スペース、カフェ、売店等の設置	35件(11.1%)
5位	親子スペースの充実(一緒に過ごせるスペース、棚の配置等)	24件(7.6%)
6位	バリアフリーへの配慮(EV・自動ドア・トイレ・段差の緩和等)	23件(7.3%)
7位	運営・サービス(予約・返却の簡素化等)	19件(6.0%)
8位	Wi-Fi・パソコンの充実(ネット環境の整備・パソコンの持込等)	17件(5.4%)
9位	備品の充実(椅子や荷物置き・見やすい棚等)	11件(3.5%)
	学習室の充実・整備	11件(3.5%)
図書館以外	現在の建物(存続・移設・別用途活用)	25件(7.9%)

3 分析結果（個人回答のみ）

	男	女	無記入	計
小学生以下	0	1	0	1
中学生以上20歳未満	4	39	0	43
20～30代	37	191	6	234
40～50代	58	148	0	206
60代以上	145	120	1	266
無記入	2	2	53	57
計	246	501	60	807

